

種子増殖用水田で稲刈りと稲架掛けを実施

つくば技術支援センター 観音台業務第3科
総括作業長 小松崎隆男

種苗管理センターが農村工学研究部門敷地内に新設した圃場で今年度から「種子増殖」を実施しています。この圃場では、6月7日に田植えを行い、穂が出る前に稲を雀から守るため防鳥網を7月3日に設置しました。鳥害もなく心配された台風の被害もほとんどなく無事10月4日に稲刈りを行いました。

稲刈りは種子として使用する区画は手作業で刈り取り、そのほかの区画は今回雑米として処理することになったため本来であればコンバインで刈り取るのですが、圃場の構造上入れないためバインダー（2条刈）で行いました。（写真参照）収穫した稲は、乾燥し脱穀することになりますが乾燥機の用意がないため乾燥は昔よく見受けられた稲架掛けによる天日乾燥を行いました。乾燥期間は天気にもよりますが二週間程度行います。機械で急速に仕上げる乾燥より天日でじっくり乾燥させた方が食味が良いとされていますが、あくまでも個人の感想です。

茨城ではこの天日乾燥のことをオダ掛けと言うのが一般的でイネを掛ける棒に竹を使いその竹のことをオダと言っています。今回は防鳥網設置に使用した機材と同じものを使い稲架木として組み立てました。稲束をかけるときは、束を差し出す役と掛ける役の二人の分担で行うと、とても効率的です。順々によく詰めて、乾燥しても緩まないように、押し込んでいくことがコツです。束を掛けたら、ぽんぽん束のもとをたたいて、高さを均一にして詰めいくと見た目も良く穂が均一に乾燥することができます。スズメなどの被害が予想されるなら、ハザのまわりに木綿糸を穂の位置になるように張っておくと良いと言われています。

10月16日天日乾燥してほぼ2週間水分も抜けいよいよ脱穀です。脱穀にはコンバインを使用し総勢12名で稲束を運ぶ班と脱穀班に分かれて作業を進め無事終了し種子増殖試験の一連の作業を締めくくりました。



バインダー（2条刈）での稲刈り(1)



バインダー（2条刈）での稲刈り(2)



私とあるおっちゃんです！



収穫した稲



稲架掛け作業(1)



稲架掛け作業



稲架掛け(1)



稲架掛け(2)



コンバインでの脱穀作業(1)



コンバインでの脱穀作業(2)

